

【 レビ記 】

- 23：15 あなたがたは、安息日の翌日から、奉献物の束を持って行った日から満七週間を数える。
- 23：16 七回目の安息日の翌日まで五十日を数え、あなたがたは新しい穀物のささげ物を【主】に献げる。
- 23：17 あなたがたの住まいから、十分の二エバの小麦粉にパン種を入れて焼いたものを二つ、奉献物としてのパンとして持って行く。これは【主】への初物である。
- 23：18 そのパンと一緒に、【主】への全焼のささげ物として、傷のない一歳の雄の子羊七匹、若い雄牛一頭、雄羊二匹、また、【主】への食物のささげ物、芳ばしい香りとして、彼らの穀物のささげ物と注ぎのささげ物とを献げる。
- 23：19 また、雄やぎ一匹を罪のきよめのささげ物とし、一歳の雄の子羊二匹を交わりのいけにえとする。
- 23：20 祭司はこれら二匹の雄の子羊を、初穂のパンと一緒に、奉献物として【主】の前で揺り動かす。これらは【主】の聖なるものであり、祭司のものとなる。
- 23：21 その同じ日に、あなたがたは聖なる会合を召集する。それは、あなたがたのためである。いかなる労働もしてはならない。これは、あなたがたがどこに住んでいても、代々守るべき永遠の掟である。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

「七週の祭り」の聖句

①出23：16……… 勤労の初穂の刈り入れ

②出34：22……… 小麦の刈り入れ

”小麦の刈り入れの初穂のためには七週の祭りを、年の変わり目には収穫祭を行わなければならない。”

③民28：26…初穂の祭り～七週の祭り ④申16：9～12…喜びと楽しみの時

⑤使2：1～4……… 聖霊降臨 ⑥使20：16、I コリ16：8

◆その他の名称

「収穫の祭り」「初穂の祭り」※、「春の祭りの締めくくり」

「一連の過越しを終える季節」などがある。

※「過越しの祭り」に含まれる一連の祭りの中にも「初穂の祭り」は存在する。

こちらは過越しの祭り後直近の安息日に催され、春の初穂として大麦の束を捧げ、イエスの働きの中では「復活」を預言していた。



希望の光バプテスト教会

2022年5月22日(日)

礼拝メッセージノート

「教会の始まり ～五旬節の日の出来事」

| ペンテコステ2022① 使徒の働き2：1～4 ほか 小野寺 望 牧師

【 使徒の働き 2章 】

- 1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。
- 2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。
- 3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。
- 4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

1：2 それは、お選びになった使徒たちに聖霊によって命じた後、天に上げられた日までのことでした。

1：3 イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られた。

1：4 使徒たちと一緒にいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。

1：5 ヨハネは水でバプテスマを授けましたが、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです。」

(4ページへ続く)

◆はじめに ～教会の誕生を振り返り感謝する

1.恵みの時代の幕開け ～それは教会と共に始まった。

(1) メシアの働きから：十字架・葬り・復活・昇天を受けて聖霊降臨

①これらがすべて字義通りに起こった時、教会は誕生した。

(2) 新しい契約の下で、教会は誕生した。

①旧約（モーセ契約）下では、実現できなかった。

②エレミヤ31章で新しい契約と聖霊の内住が預言されている。

*本来はイスラエルの民族的救い（完全な回復と神の勝利）の啓示である。

*異邦人が先んじて祝福を受けるために、ユダヤ人の一部はつまづいた。

2.起源をたどることの意味 ～教会生活がいつも正しくあるために

(1) 教会が力を失う時：

①マンネリ化、儀式化、繁栄の追求、世への妥協…

②罪で神を悲しませる恐れと、恵みへの感謝を忘れた教会

(2) ユダヤ的ルーツに立ち返れ

①ペンテコステを機に教会の起源を正しくたどることは、その一つである。

*教会がペンテコステに誕生した理由

②教会の目的、信徒の目的、歴史のゴールを見据えて、正しい歩みを取り戻す。



◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

|クリスチャンにとってのペンテコステ

*このメッセージは、教会の起源の確かさを覚え、感謝するためのものである。

I 五旬節（ペンテコステ）の意味（1節）

1.名称

(1) ヘブル語では「シャブオット」（「7」の意味）

①七週の祭り：初穂の祭りから7週目に催される点を強調

(2) ギリシャ語で「ペンテコステ」：「50」日後という点を強調〈五旬節〉

2.祭りの内容と趣旨

(1) 毎年守り行うように律法で命じられた祭り。

(2) 3大巡礼祭りの一つで、成人男性はエルサレム巡礼が求められる。

(3) ペンテコステは夏の初穂の祝いとして、小麦（種を入れたパンを2個作る）をそのまま焼き尽くさずに捧げる。～そのヘブル的意味合いは？

(4) この祭りは、農業祭としての側面と宗教的側面を持つ。

①前者については、以前の遊牧生活や奴隷生活を改め、自立・定住した上での農業生活が与えられることを、予め確約したものである。

*その成就がカナン定住である関連で「土地取得を祝う」という意味も後に加えられた。

②後者については、シナイ山で律法を授与した日という伝承から祝われた。

II 聖霊が下る（2～3節）

1.イエスを信じた人々の群れ

(1) 初代教会の信者は、ヘブル的習慣・律法に従い祭りを祝いながら集い、祈った。

*注意深く読むと、「家」とは神殿を指して（参照7：47「神の家」）、祭りを祝い祈っていた。1章の続きで屋上の間に居たとなると、やや意味合いがおかしくなる。

(2) この時、そこにいた人は、弟子全員か、12使徒のみかは論争がある。

*参考：異言を話したのはみなガリラヤの人々。使徒たちが有力か。

2.大風が吹き、炎の舌が下る

(1) 「激しい風」（ヘブル語「ルアハ」は聖霊をも指す言葉） *参照エゼ37章

(2) 「炎のように分かれた舌」：炎も聖霊の象徴。

①炎のような舌が一人ひとりの上に留まる。※「舌」はギリシャ語で「グロッサ」

②先は舌状に分かれていても、その根元は一つの御霊である。

(3) 聖霊が劇的な方法（神の臨在に伴う栄光）で降臨した。

*モーセがシナイ山で神と対面した時も、栄光（シャカイナグローリー）が伴った。

III 異言、そして聖霊のバプテスマ（4節）

(1) 聖霊により付与された話す能力。内容は他国のいろいろなことば。

①訓練によって習得した語学力ではない。御霊の賜物の一つ。

*神はかつて、言語を散らされた（バベル事件）が、その障壁を一時的に取り除けられた。

②使徒たちがキリストの証人になるための奇蹟（イエスの約束の成就）

*したがって異言は必ず伴うものではない。神が必要と認めた時に与えられる。

(2) 聖霊のバプテスマ

①この時、使徒たちに聖霊のバプテスマが起こり、聖霊の満たされた。

*「満たし」の新約的な意味は、「聖霊に委ねる」ということ。

②意味：キリストとの一体化

*教会誕生に不可欠な祝福（次回以降詳しく取り上げる）

・キリストを信じた瞬間、すべてが信者が一度限り体験する祝福。

*聖霊の内住に伴う奇蹟。

・「内住」もまた、旧約時代とは意味も内容も異なる。

◆まとめ：クリスチャンにとってのペンテコステ

1.新しい意味が与えられた：

①過越しの血から2つのパンへ（贖いの完了と救い）

②律法の内容と、それがどこに書かれたか？（信仰生活の新しい原理の付与）

2.新しい時代が始まった：新約時代・恵みの時代と教会時代

①契約の民イスラエルと異邦人の違い

②異邦人信者と教会が、ユダヤ的ルーツに立ち返り取り戻す祝福